

頼もしい子 ~心の宝物に満ちた学校~

令和5年6月26日

4年国語「一つの花」

校長 尾崎 友美

306、315、245、245、175、175。各学年の国語科の授業時数です。総授業時数が各学年850~1015ですので、その全体に占める割合は非常に高い。国語の教科書を用いた授業だけでなく、日常の話題を取り上げた話し合い、漢字の学習、読書活動等も含め、各学級で工夫を凝らしながら進めています。ご家庭でも音読や漢字練習の見届けをいただいています。ありがとうございます。

4年生の児童は、6月に物語文「一つの花」を学習しました。これは、太平洋戦争末期のある家族を描いた物語です。主人公ゆみ子の父親が出征することになり、ゆみ子が母親と見送りに行きます。ゆみ子がおぼえた最初の言葉「一つだけちょうだい。」が、父親との最後の別れになるであろう場面でも発せられ、それを聞いた父親は・・・、という物語です。私が4年生を初めて担任した20年ほど前にも教科書教材になっていましたので、学習した覚えのある方があるかもしれません。

先日、担任に児童が授業で書いた感想を読ませてもらいました。ゆみ子の成長、ゆみ子の両親の願い、当時の暮らし、授業で学んだ様々な視点からこの物語のテーマを深く考えていました。一部を紹介します。

○最初に読んだ時は、小さな頃にゆみ子のお父さんが亡くなり、憶えていないんじゃないかと思って、かわいそうに思いました。けれど、「コスモスの花でいっぱい包まれています。」と書いてあるところに、お父さんに最後に一つだけもらったコスモスの花を大事にしているから、お父さんのことをおぼえているよ、大事にしているよ、という思いをこめているのではないかと思いました。(Rさん)

○戦争に行ったお父さんが亡くなってしまいました。作者は、戦争は絶対にいけないと語っていると思いました。また、戦争中は配給された物しかなかったけれど、戦争が終わるとお肉やお魚も買いに行ける。そのくらい平和な町になって、お父さんのくれたコスモスでいっぱいになっていました。一つのコスモスがいっぱいのコスモスになりました。このコスモスがゆみ子を変えた、ゆみ子は成長したと思いました。(Tさん)

私の母は、主人公ゆみ子と同じような生い立ちで育ちました。昭和18年生まれ。5人兄弟の4番目。父親(私の祖父)が出征したのは2歳の時ですので、出征してすぐに終戦を迎えたと思われます。母の弟は祖母のおなかの中でした。戦争が終わっても父親は帰ってこない。引き揚げてきた人の名前が町の掲示板に貼り出されると、曾祖母が祈るようにして掲示板を見ていたことを、母は憶えていると言います。我が子の帰りを待ち焦がれる。想像しただけで胸が痛みます。やがて、形だけの骨壺が届き、正式に鬼籍に入りました。夫を失った私の祖母は5人の子ども達を育てなければなりません。慣れない田畑仕事を手伝い、月夜に自転車に乗る練習をし、経済的には同居の義父母や近くに住む義弟の世話になったようです。雨の日だけは、田畑に行けない祖母とおやつを食べることができるので、雨の日を楽しみにする変わった子どもだった、と母は今でも嬉しそうに思い出して話します。

修学旅行から戻った日、迎えに来た親と嬉しそうに帰路につく友人を、兄の自転車の後ろに乗って眺めていたこと、親に負担をかけてはならないと小さい夢も大きい夢も言い出せなかったこと、数少ない父親の写真を見ながら弟と想像をしていたこと・・・子どもの頃に聞いたそれらの話は、今思えば我が家流の平和教育だったのかもしれません。

母は孫の宿題を見ていた頃、音読で「一つの花」を初めて聞きました。聞いて一言

「戦争は、あかん。誰も幸せにならん。」

市民目線での戦争が、「一つの花」には描かれています。悲しい中にあっても美しいもの、美しい言葉を手渡したい肉親の愛情を読み取ると同時に、将来もずっと世界平和を願う人になってほしい。私たちの心の底からの願いです。

われら Team 高富
～「できた!」「分かった!」が聞きたい～

今号では、朝田裕先生（学習指導部長）、大原俊子先生（学力向上推進教師）、吉岡望先生（算数少人数担当）、土田哲也先生（教務主任）にインタビューしました。



大原先生 吉岡先生

◇学習指導や学力向上の視点から見て、今年度の高富小学校はどうか。

朝田「様々なことを学んで、それができたときの顔が素敵です。数年前に導入されたタブレットも活用がどんどん進んでおり、すごいなと思っています。」

大原「自分の課題やめあてが明確な時の集中力は素晴らしいです。さらに自分の力で探究する力を今後付けていきたいです。」

吉岡「今年度は3～6年で授業をしています。寄り添う、ほめる、できるという実感が持てる、この流れが大切だと感じています。少人数教室は、できた喜びでいっぱい。いつも活気があります。」

土田「課題に向かってがんばる姿や、分からないことを分からないと言えることがいいと思っています。しかし「教えてもらう」という意識が強いように感じます。自ら「やりたい」という気持ちを生み出したいですし、先生方にもそんな授業を展開してもらいたいと思います。」

◇課題も出てきましたが、今後取り組みたいことはありますか。

土田「教科学習では「単元」という考え方を基本としていますが、基本的な内容を積み上げること中心の構成ばかりでなく、課題中心型、子ども達はその解決に向けて自分で学習を進めていく構成に挑戦していきたいです。」

吉岡「私の教室では指導計画に沿って進めていきます。既習内容の定着に努めるとともに、少人数教室では一人一人の発言の機会も多いですから、皆の前で説明をする場面を多く生み出したいです。」

朝田「家庭学習の工夫について職員の間で話し合いたいと考えています。出される宿題ではなく、自分でやりたいことに取り組む。調べたりやってみたりして分かる、できるって、とても嬉しいことだと思うからです。学年によると思いますが、大原先生が担任する6年生はどうか。」

大原「私も宿題については考えていきたいです。自分に必要なことを考えて進められるといいと思います。まずは、夏休みにトライしてみるといいのではないのでしょうか。」

放課後の職員室では、このように学習指導についての話し合いがよく行われています。対話を通して教員自身も課題に気付いたり、改善のアイデアを発見したりしています。子ども達からの「できた!」「分かった!」という声が、私たちのエネルギーです。



朝田先生

土田先生



4人の話の続きはWebで。
子育てエピソードを語っています。

キラキラ
高富っ子



全校で鬼ごっこ「逃走中!」



雨宿りコンサート



あいさつ
キャンペーン

いつもに増して元気でさわやかなあいさつが響きました。

7月の主な行事予定

- 3日（月）読み聞かせ
- 4日（火）～ 思いやりウィーク
（いじめを考える日）
- 7日（金）大掃除
- 11日（火）～14日（金）個人懇談
- 20日（木）1学期終業式
- 21日（金）～ 夏季休業日

8月の主な行事予定

- 21日（月）～23日（水）夏休み宝もの搬入
 - 28日（月）2学期始業式（11:20 下校）
 - 28日（月）～30日（水）夏休み宝もの展
- ※予定が変更になることもあります。

お知らせ

今年度も夏季休業中の学校・保護者運営によるプール開放は行いません。児童の登下校中の熱中症を避けるためです。ご理解をお願いいたします。

なお、TSC主催による水泳教室は実施される予定です。

